

ととと通信

2021年8月16日発行

221号

「ととと通信」は
毎週 土曜日 11時頃
発行予定です。
お読みください。

こんにちは！平川です。ようやくクレーナしでぐっすり眠れる夜が増えてきました。いかがお過ごしですか。さて8月は原爆の日、終戦記念日、お盆と平和や命について考えることの多い月です。セミの命はひと夏だけ。ミン、ミンとの鳴き声が、一生懸命に生きてるぞと聞こえるのは、そのせいでしょうか。

では今月もはりきっていきましよう！

あん頃のおぼくらはアホやった2

先月号の続きです。私は中学へ入学すると、すぐに水泳部へ入部し、2年間の厳しい指導に耐え、はれて天下の3年生になった。学ランのエリにつける皿のバッチが神々しく見える。「ああ、これで五厘刈りから開放される。この青光りの頭もおさらば。やっ」とモチキが来るぞと髪を伸ばしたが、その気配まったくなし。それじゃと図に乗って私たちは、超ド派手な水着に買い換えた。ヒョウ柄、水玉、蛍光色のオンパレード。通常、中学生の競泳水着といえば、無地で

ある。こんな水泳部はどこにもない。

時々突然OBが練習を見学に来たが、その度あわててはき替えた。私にはこんな特技があった。潜水で53メートルという超人的な記録を持っていた。25メートルプールなので、水中で2回ターンすることになる。50メートルプールだったなら、まだいけてたと思う。部内では、もちろん一番だった。だからといって、競技に潜水という種目はないので、何の意味もないことだが、またこんなこともしていた。網目の排水口にバスタオルを近づけると、吸い込む水圧でバタと張り付く。そこへ何度か潜っては空気を送り込み、バスタオルの下に空気の層を作る。そしてその空気を吸うことで、10分以上、水中にいらることが出来た。いたい何が面白かったのだろう。こう書くと、遊んでばかりのようだが、実は松、平泳ぎがとて



も速かった。中体連の福岡市西区大会では、100メートル、200メートルとも一位。続いて福岡市大会では、100メートルが二位、200メートルが三位だった。そして福岡県大会へ進み、会場は田川市の市民プールだった。学校が大型バスを用意してくれ、水泳部の部員や両親、もちろん私の両親も忙しい仕事を休んで応援に来てくれた。出発前には、校長先生から水泳部一同へ激励の言葉もいただいた。後輩からは、「先輩、九州大会まで連れてって下さいよ」「おう、まかせとけ」コンディショニングが良かった私は、県大会を突破し、九州大会へ行ける自信があった。その時までは、さて予選は午前中で終了した。私は自己新を出し、100メートル、200メートルとも順調に決勝へ進んだ。決勝は午後から。昼食をすませ、時計を見ると、あと2時間もある。「ヒマやなあ。あつ、そういえば、」思い出さなくていいものを、こんな時にかぎって、思い出す。会場の近くに、ゲームセンターがあったのを、バスの中から、しっかりと見ていた。私は、「ちょっとだけ、インベーダーをしに行こうぜ」と後輩を誘い、こっそりと会場を抜け出した。ご存知でしょうか。インベーダーとは、当時、若者層に爆発的人気があった（例）タイトーのアーケードゲーム「スペースインベーダー」のことです。アーケード

史上、空前のヒット作で、数々の社会現象となりました。名古屋撃ちと聞いて、ピンとくる方は、かなりハマった方ですね。そのインベーダーをしに行ったのです。ここからの展開はもうご想像の通りです。私たちは時間を忘れる程、夢中になり、気づいた時はもう手遅れ。「あつ、やばい。今何時？」猛ダッシュで会場に戻ったが、ちょうど200メートル決勝が終了したところだった。「おい、どこに行っちゃったや」ちやうとそこまでインベーダーを顧問の先生はあきれ怒りもなかった。その後すぐにあった100メートル決勝にはギリギリ間に合ったが、猛ダッシュで息を切らした上、意気消沈した状態では、結果は散々だった。もちろん、九州大会へは行けず、私の中学生三年間の努力はあっけなく、インベーダーとともに、幕を閉じたのでした。つづく。



発行／有限会社アサム
〒819-1127 福岡県糸島市有田中央 2-14-36
Tel: 092-321-4001 Fax: 092-321-4002
・専門学校&スクールサーチ : <http://www.asamnet.jp/>
・ブログ : <http://itorinri.com/>